

第2章 学校の紹介

児童（生徒）数・教職員数・校地面積は、平成25年5月1日現在のものです。

小学校（開校年月日）

鳴 海（明治6年10月15日）… P.311	神 の 倉（昭和50年4月1日）… P.318
鳴海東部（昭和23年4月1日）… P.311	長 根 台（昭和50年4月1日）… P.318
東 丘（昭和34年6月1日）… P.312	桶 狭 間（昭和51年4月1日）… P.319
平 子（昭和28年4月1日）… P.312	相 原（昭和54年4月1日）… P.319
鳴 子（昭和37年4月1日）… P.313	桃 山（昭和54年4月1日）… P.320
大 高（明治6年11月12日）… P.313	南 陵（昭和56年4月1日）… P.320
有 松（明治7年7月12日）… P.314	大 高 北（昭和56年4月1日）… P.321
緑（昭和43年4月1日）… P.314	大 高 南（昭和61年4月1日）… P.321
片 平（昭和45年4月1日）… P.315	徳 重（昭和63年4月1日）… P.322
戸 笠（昭和46年10月1日）… P.315	滝 ノ 水（平成2年4月1日）… P.322
太 子（昭和48年4月1日）… P.316	大 清 水（平成2年4月1日）… P.323
浦 里（昭和49年4月1日）… P.316	常 安（平成10年4月1日）… P.323
旭 出（昭和49年4月1日）… P.317	小 坂（平成15年4月1日）… P.324
黒 石（昭和49年4月1日）… P.317	熊 の 前（平成20年4月1日）… P.324

中学校（開校年月日）

鳴 海（昭和22年4月1日）… P.325	神 沢（昭和51年4月1日）… P.328
大 高（昭和22年4月1日）… P.325	扇 台（昭和54年4月1日）… P.328
有 松（昭和22年4月1日）… P.326	滝 ノ 水（昭和60年4月1日）… P.329
鳴 子 台（昭和41年4月1日）… P.326	左 京 山（平成4年4月1日）… P.329
東 陵（昭和48年4月1日）… P.327	鎌 倉 台（平成5年4月1日）… P.330
千 鳥 丘（昭和50年4月1日）… P.327	神 の 倉（平成16年4月1日）… P.330

市立高等学校（開校年月日）

緑（昭和44年4月1日）… P.331

県立高等学校（開校年月日）

鳴 海（昭和51年4月1日）… P.331



名古屋市立 **鳴海小学校**
緑区鳴海町字矢切98番地

児童数 585名 教職員数 38名
校地面積 29,538平方メートル



本校は明治6（1873）年に開校し、平成25（2013）年には、創立140周年を迎えた歴史ある学校です。

校内には、昭和32（1957）年再建の講堂があり、当時は旧鳴海町の成人式なども行われていました。現在も講堂は学校行事などで使用され、児童は日々学校の歴史を感じながら学んでいます。昭和58（1983）年に整地された「矢切の丘」では、休み時間などに児童は走り回ったり虫をつかまえたりと楽しんでいます。また、学区の特色である「鳴海紋」を総合的な学習の時間やクラブ活動に取り入れ、運動会では地域の方々とともに踊りを踊る時間もあります。そのため学区との結びつきが強く、児童に地域への愛着が芽生えています。

現在は「互いを尊重することのできる子どもたち」を主題にして、児童の自己肯定感や他者を思いやり大切にする心情が育まれるような実践を重視して行っています。



名古屋市立 **鳴海東部小学校**
緑区平手北二丁目901番地

児童数 725名 教職員数 43名
校地面積 16,992平方メートル



本校の歴史は古く明治6（1873）年9月、愛知郡平手新田村方会所を校舎とし、第2中学区内第15番小学幼導学校として開設（1学級）しました。昭和23（1948）年10月、前年の独立開校時の校名、鳴海町立鳴海第2小学校から、鳴海町立鳴海東部小学校と校名を変更しました。昭和38（1963）年4月1日、名古屋市に合併し、現在の校名となりました。

昭和40（1965）年以降は、徐々に宅地造成ブームの波が押し寄せ、造成地に家が次々と建てられ、児童数も急増しました。そのため、昭和49（1974）年に黒石小学校が分離独立したのを皮切りに、翌年には神の倉小学校が、昭和63（1988）年には徳重小学校が、平成2（1990）年には大清水小学校と滝ノ水小学校が、平成10（1998）年には常安小学校が、平成15（2003）年には、小坂小学校が分離独立しました。

純真で、明るく、ねばり強い鳴東っ子は、「強い子・正しい子・かしこい子」の校訓を motto に、学区住民の温かい見守りの中で健やかに成長しています。



名古屋市立 東丘小学校

緑区鳴海町字有松裏9番地

児童数 609名 教職員数 40名

校地面積 17,282平方メートル



本校は、大正13（1924）年に鳴海小学校分教場として開設され、昭和34（1959）年6月1日「東丘小学校」として独立開校しました。校名は学校の位置が鳴海町の東の丘にあるところから命名されたものです。

学区には、工場はほとんどなくマンションや住宅が多く建てられています。学校南側の有松駅周辺は、駅前再開発事業により橋上駅舎やショッピングセンターができるなど大きく変貌しました。

校訓に「人・物・夢を大切に」を掲げ、学校と地域が一体となり児童の健全育成に努めています。東丘まつりでは、学級の友達と協力して模擬店を運営したり、異学年でペアグループを組み、お店を回ったりします。また、外国人を招いて英語活動を行ったり、お年寄りを招いて昔の遊びや暮らしを体験したりしています。給食後の歯磨きを始め、歯を大切にする活動にも長年取り組んでいて、歯科衛生に関する賞を多数受賞しています。



名古屋市立 平子小学校

緑区平子が丘236番地

児童数 447名 教職員数 28名

校地面積 15,712平方メートル



本校は、旧東海道の鳴海と有松の間に位置しています。昭和28（1953）年4月に愛知郡鳴海町立平子小学校として開校しました。昭和38（1963）年名古屋市に合併し、名古屋市立平子小学校となりました。平成24（2012）年度には、創立60周年を迎えました。学区の中央を国道1号線と名鉄本線が通り、坂道も多くありますが、学区全域に閑静な住宅街が広がり、南部は大高緑地公園の一部を含み、緑が多く自然環境に恵まれています。

本校は「強く・正しく・美しく」を校訓とし、地域一番元気校をめざし、「元気5ヶ条」を掲げて教育活動に取り組んでいます。昭和41（1966）年から続く「平子努力賞制度」があり、自分の目標達成に向けての児童一人一人の頑張りを表彰しています。

P T Aは、双葉会と称し、学年集会・もちつき祭りなど、大変盛んに活動しています。学区も、様々な場面で学校を支えています。地域のボランティア会員約100名が「平子まもり隊」として、1年生の下校に付き添っています。



名古屋市立 鳴子小学校

緑区鳴子町2丁目69番地

児童数 317名 教職員数 29名

校地面積 13,547平方メートル



本校は、鳴海町がまだ名古屋市と合併する前に、鳴海町北部の丘陵地に造成されたニュータウン「鳴子団地」の中心に位置するように建設され、昭和37（1962）年4月に開校しました。子どもたちは、落ち着いた雰囲気です学校生活を送っています。

本校の教育は、「美しい心、強いからだ」を校訓とし、心身ともに調和のとれた「鳴子の子」の育成を目指し、相手を思いやる優しく寛大な「美しい心」と健康で病気に負けない丈夫で「強い体」をもった鳴子の子どもたちを育てることを目標にしています。

また、学習では、基礎・基本を大切にしながらも、そこから身に付けた知識や技能を自分なりに活用し、常に新しいことに挑戦してみようという積極的な気持ちを育てるようにしています。部活動も盛んで、野球部・サッカー部・ソフトボール部・バスケットボール部などに、子どもたちは進んで参加し、日々熱心に練習し、大会や記録会で素晴らしい成績を収めています。



名古屋市立 大高小学校

緑区大高台三丁目2601番地

児童数 601名 教職員数 38名

校地面積 28,684平方メートル



明治6（1873）年11月12日に第十六番小学明道舎として誕生し、昭和39（1964）年12月1日に名古屋市への編入とともに、名古屋市立大高小学校となりました。

大高城趾を始めとする史跡が多く、歴史散策コースがある学区です。学校の南側は近年開発が進み、他市や他学区から移り住む人が増えてきています。

正門の築山にある校訓碑「和」には、「人と争わず、何事も仲よく協力して、行動していこう」との思いが込められています。

多くの子どもたちが部活動に熱心に取り組んでいます。平成18・21・24（2006・2009・2012）年度には、金管バンド部が名古屋市教育委員会から団体表彰を受けました。

学区の方たちは、学校教育に大変協力的で、「おらが学校」との思いをもち、進んで木々の剪定や除草等の環境整備に取り組んでくださっています。地域と学校が一体となって取り組む誇りに思える活動です。



名古屋市立 有松小学校

緑区有松2803番地

児童数 742名 教職員数 39名

校地面積 14,153平方メートル



本校は、明治7（1874）年に知多郡第十九番小学有明学校として誕生し、明治9（1876）年には校名を有松学校と改めました。尋常小学有松学校、有松国民学校等を経て、現在に至っています。学区の北側は、絞り商や文化財に指定された家々が建ち並び、3輦の山車を有する旧東海道の町並み保存地区です。一方、学区の南側は新しく発展した住宅街で、平成23（2011）年度には名古屋第二環状自動車道の有松インターチェンジも開通しました。

「明るく・強く・正しく」の校訓のもと、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざすとともに、地域の貴重な文化・伝統である「有松絞り、旧東海道の町並み、山車祭り」を中心とした体験学習に取り組み、地域の人・文化・伝統を愛する児童の育成にも力を注いでいます。平成11（1999）年度に全国小学校生活科研究協議会名古屋会場として実践を発表しました。また、平成22（2010）年度に名古屋市の教育研究委託を受け、平成24（2012）年度には、ユネスコスクールに認定されました。



名古屋市立 緑小学校

緑区鳴海町字前之輪24番地

児童数 336名 教職員数 27名

校地面積 9,935平方メートル



本学区は、扇川沿いの工場地区、大浜街道沿いの昔からの住宅地区、大高丘陵にかけての新住宅地区に大別されます。区役所や警察署等の公共機関が集まっている学区です。

本校は、昭和43（1968）年4月に鳴海小学校から独立しました。校章は、校地が鳴海八幡宮の一区分であったことから、社紋の橘を取り入れ、六葉は、誠実・勤勉・剛健・忍耐・責任・感謝を表しています。創立以来、「明るく健康な子ども・よく考え進んでやり抜く子ども・力を合わせて働く子ども」を目標として児童の育成に努めています。

最近では、交通指導員や学区連絡協議会、保護者や地域ボランティアの方々と協力し、登下校時の交通安全指導を毎日行っています。平成24（2012）年には、全国交通安全優良校の表彰を受けました。また、元気よく挨拶ができる通学班を表彰する「あいさつMVP」や、PTAと連携して「あんぜん・あんしん・あいさつ応援隊」などの活動にも取り組んでいます。「みんな仲よし！ 笑顔あふれる緑っ子」が合い言葉です。



名古屋市立 片平小学校

緑区鳴海町字片平18番地

児童数 548名 教職員数 35名

校地面積 13,958平方メートル



昭和44（1969）年鳴海小学校分校として誕生し、翌45（1970）年独立・開校しました。地下鉄野並駅南を流れる藤川から南へ約2キロ、東西約1キロが学区です。学校は、学区のやや南側の小高い丘に位置し、4階からは、名古屋の街が一望できます。鎌倉街道が通っていたころからの地名、旧東海道の賑わいを伝える常夜燈、芭蕉の碑を守る千句塚公園など、学区には歴史を語るものが多く残されています。

こうした豊富な文化遺産に囲まれた特色を生かし、社会科の学習では学校を出て地域を歩いて調べる活動を取り入れたり、歴史資料や昔の道具を教室に集め、片平資料館として学習に役立てたりしています。

本校は、毎日の登下校の見守り、生活科・クラブ活動の講師等で、子どもを慈しむ温かい地域の支えを受け、「自ら考え、思いやりをもって行動する子どもの育成」を目標に教育活動を展開しています。



名古屋市立 戸笠小学校

緑区相川三丁目60番地

児童数 396名 教職員数 29名

校地面積 11,640平方メートル



戸笠学区は、緑区北部に位置する緑豊かで閑静な地域です。学校の南には螺貝公園があり、春は桜が美しく、夏には希少な野鳥が飛来します。平成23（2011）年3月には地下鉄が開通し、学校のすぐ近くに相生山駅ができ、交通の便も格段によくなりました。

本校は、昭和46（1971）年10月に鳴子小学校より独立開校しました。開校と同時に、学区の方々に呼びかけて校章のデザインを募集し、その応募作品をもとに、古くからこの地に群生していた「はぎ」を取り入れた校章が作られました。開校当初は校内の緑化に力を入れ、昭和50（1975）年の春にFBC内閣総理大臣賞、同年秋には名誉大臣賞を受賞しました。また、体力づくりにも全校で取り組み、昭和57（1982）年に愛知県体力づくり優良校表彰、昭和60（1985）年に保健体育指導研究全国表彰を受けています。

開校以来、「なかよく、つよく、すすんで」を校訓として、自ら学び、心身ともに健やかな子の育成を目指して、日々実践に努めています。



名古屋市立 太子小学校
緑区太子二丁目242番地



児童数 429名 教職員数 34名
校地面積 13,223平方メートル

本校は、昭和46（1971）年東丘小学校の分校として開設され、昭和48（1973）年4月、児童数442名で太子小学校として開校しました。

本校の校名の由来となった太子ヶ根岳（桶狭間の合戦に際し織田信長の軍勢がこの地に集結したという）がありましたが、宅地造成により姿を消しました。その名残として、起伏に富んだ地形となっています。

学区は閑静な住宅地で緑が多く、車の交通量が少なくてよい環境です。また、学区のほぼ中央にある大将ヶ根緑地公園をはじめ、多くの公園があります。

保護者や地域は学校教育に協力的で、地域の方を招いて行う学習も多くあり、充実した教育活動を行っています。開校10周年以来「すすんで・なかよく・さいごまで」を校訓として、地域ぐるみで望ましい児童の育成に努めています。



名古屋市立 浦里小学校
緑区浦里一丁目77番地



児童数 190名 教職員数 24名
校地面積 15,050平方メートル

本校は、名古屋市南東部のかつて鳴海潟と呼ばれた入り江のあったところに位置し、本年度で開校40年目を迎えます。学区は、西側が県営、市営住宅が広がる住宅地で、東側から北側にはたくさんの工場が立ち並ぶ環境にあります。最近、北西部の区画整理が進み、100棟近くの住宅が造成されました。こうした環境の中で、児童を多くの教師の目で見えていくことで、一人ひとりの興味・関心、考え、習熟度等を教師が的確にとらえるようにし、よりきめ細かなその子に合った支援をして、基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上を図るよう心がけています。

本校では、教育目標「進んで学び、心身ともに健康で、他を思いやる心をもつ児童の育成」を掲げ、本年度は「高めよう体力 育もう健康」という主題を設定し、体育・健康・安全に関する学習に特に力を入れています。部活動では、野球、バスケット、サッカーなどの各部が活動しています。



名古屋市立 旭出小学校

緑区旭出一丁目101番地

児童数 644名 教職員数 39名

校地面積 13,311平方メートル



昭和49（1974）年4月、鳴子学区の池上地区を含めた鳴海学区北東部を学区として、鳴海小学校から独立しました。「旭出」の名は、永禄3（1560）年「桶狭間の合戦」で織田信長が今川義元の本陣へ急ぐ途路、この地で日の出を迎え、これを勝ちいくさの前兆と喜び、士気を鼓舞したという故事に由来します。平成25（2013）年には開校40周年を迎えました。教育目標「本気で学ぶ・正しく生きる・体をきたえる」のもと、全国学校図書館協議会会長賞、こども音楽コンクール文部大臣奨励賞、学校保健優良校などを受賞し、本校教育の実を着々と積み上げています。また、平成19（2007）年度から2年間、子どもたちの「豊かな心」の育成をめざし、名古屋市教育委員会による学力向上パイロット事業に参加したほか、知的好奇心を刺激しながら、主体的な学習となるように、自然に触れたり地域に親しんだりできる場『旭出スペース』を校内の中庭に設置し、生活科や理科、総合的な学習の時間に活用できるようにするなどの取り組みを進めています。



名古屋市立 黒石小学校

緑区黒沢台二丁目1533番地

児童数 263名 教職員数 24名

校地面積 10,367平方メートル



本校は、昭和49（1974）年4月、鳴海東部小学校から独立し、当初は、島田小へ委託通学していた児童179名、6学級で開校しました。校名は、当時の通学区域の大部分及び学校が鳴海町黒石にあったことに由来します。校章は、校名の「黒石」の文字を中央に置き、「鳴海の丘陵地の緑をいつまでも残したい」という願いを込めて、「小」の字を図案化し、これを緑でまとめています。校訓は、「明るく、なかよく、きまりよく」。「豊かな想像力とたくましい体力をはぐくみ、何事にも粘り強く頑張り抜く意欲をもった心身共に健やかな児童」の育成を目指しています。最近では、市の教育委員会表彰を3度受賞（平成22年度には、「学校で役立つことをしよう」という6年生の発案で校訓の頭文字から名付けた「プロジェクトA・N・K」を立ち上げて実践。その成果が認められ、平成22・23年度の2年連続で受賞。また、平成23年度は、学校保健優良校として受賞）しました。平成25（2013）年度には、創立40年を迎えました。



名古屋市立 神の倉小学校

緑区神の倉二丁目198番地

児童数 782名 教職員数 45名

校地面積 12,388平方メートル



本校は、昭和50（1975）年4月、鳴海東部小学校から独立しました。校名は学校の所在地の地名にちなんだものです。緑の多い丘陵地を開発した住宅地で公園が計画的に設置され、自然環境に恵まれた閑静な学区です。「強い子・正しい子・考える子」を校訓として児童育成に努力を続け、平成4（1992）年に緑区少年野球大会優勝、同6（1994）年には鼓笛部が国体式典参加、同11（1999）年度には名古屋市学校保健優良校受賞、同22（2010）年度には名古屋市バレーボール合同ブロック指導会で男女アベック優勝を飾るなど、様々な分野で心身ともにたくましい児童が育っています。

また、読書活動の一環として、平成15（2003）年度より在校生や卒業生の保護者による読書ボランティアの読み聞かせを毎週火曜と木曜の2時限後の休み時間に図書室で行っているほか、生活科「昔の遊びに挑戦しよう」の学習では、高齢者の方々に遊び方を教えてもらうなど、保護者や学区の方々に支えられて、児童は健やかに育っています。



名古屋市立 長根台小学校

緑区古鳴海二丁目161番地の1

児童数 486名 教職員数 37名

校地面積 11,782平方メートル



本校は昭和50（1975）年4月に鳴子小学校より独立し、長根台小学校として発足しました。当時、学区は畑や雑木林の点在する丘陵地でしたが、その後開発が進み、高層住宅が建ち並ぶベッドタウンとなりました。

創立以来「正しく・なかよく・たくましく」を校訓として教育の推進に努めてきました。この間、図書館教育で昭和53（1978）年度には市教育委員会より奨励賞・部門優秀賞を、さらに同55（1980）年度には総合文部大臣賞を、また、同56（1981）年度には、調査統計の功績を認められ文部大臣賞を受賞しています。平成17（2005）年度には、学力向上パイロット事業により「長根の里」（学校ビオトープ）を整備し、環境を意識した取り組みを工夫した学校ができつつあります。

このように、恵まれた環境のなかで、子どもたちは毎日楽しく遊び、健やかな成長をしています。



名古屋市立 桶狭間小学校

緑区有松町大字桶狭間字巻山30番地

児童数 955名 教職員数 60名

校地面積 12,910平方メートル



本校は、昭和51（1976）年4月に有松小学校から独立し、校名は伝統ある学区の大字名をつけたものです。学区は、戦国史を飾る桶狭間合戦の戦場となった地で、平成22（2010）年には桶狭間合戦450年を迎え、古戦場公園に織田信長と今川義元の銅像を建立、合戦をジオラマで再現するなど整備されました。また、戦評の松、七つ塚、今川義元公を祀る長福寺など合戦ゆかりの史跡も残っています。本校は、教育目標「やさしい心をもち 一日をよりよく すごそうとする子」を掲げ、校訓「なかよく きまりよく げんきよく」を柱として、職員・児童・保護者が一体となって取り組んでいます。また、地域をよく知り、桶狭間で育つことに誇りをとの願いから、地域の方々を講師に招いての地域学習が盛んで児童は興味・関心をもって楽しく取り組んでいます。歯の健康教育にも力を入れており、給食後の歯みがき指導への取り組み実績が評価され、平成23（2011）年には、全日本歯科保健優良校（奨励賞）の表彰も受けることができました。



名古屋市立 相原小学校

緑区若田一丁目301番地

児童数 437名 教職員数 41名

校地面積 11,570平方メートル



昭和54（1979）年4月1日に鳴海小学校・東丘小学校ほか2校の学区を再編成し、児童数307名・10学級で開校しました。

学区は、扇川を中央にして北側は旧鎌倉街道の宿場町として栄え、南側は、緑の豊かな住宅地です。平成23（2011）年3月には、学区の東を南北に貫く名古屋第二環状自動車道が開通し、名古屋都市圏や名古屋港・知多半島への交通アクセスが良くなりました。

平成25（2013）年度は、たくましい心身を身に付けた児童の育成を目標に、体育の時間だけでなく、学校生活の様々な機会を通し、楽しんで体を動かす場を設定し、学校全体で取り組んでいます。創立35年目を迎え、校訓「正しく なかよく 力いっぱい」を柱に、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指し、学区と学校がさらに一体となった教育活動に取り組んでいます。



名古屋市立 桃山小学校

緑区桃山四丁目327番地

児童数 567名 教職員数 37名

校地面積 12,016平方メートル



本校は、昭和54（1979）年4月に新興住宅の造成によって、黒石・戸笠両校より分離、開校しました。市東南部の丘陵地に位置し、学校の南には鳴海配水塔がひとときわ高く、カップのような姿を見せています。開校当時は、春には桃の花が咲き、多くの自然に恵まれていたことから「桃山」の名が付けました。その桃山も開発が進み、地下鉄や名古屋第二環状自動車道が通るなど様相も大きく変わりつつあります。「仲良く明るい子、強くたくましい子、進んで学び行う子」を校訓に掲げ、桃山教育を推進しています。

今年度より学校教育努力点のテーマを「基礎基本を大切にし、学ぶ楽しさを実感できる児童の育成」とし、算数科において基礎的・基本的な知識を確実に習得し、得た力を授業などの場面で活用することで「学ぶ楽しさ」を実感できるよう進めています。

また、平成24（2012）年度には、体育館棟の大規模改造を行い、恵まれた環境の中で日々の教育活動を行っています。



名古屋市立 南陵小学校

緑区桶狭間森前1348番地

児童数 397名 教職員数 36名

校地面積 14,588平方メートル



本校は、昭和56（1981）年に開校し、今年度で33年目を迎えます。平成13（2001）年度に「新世紀学校づくり推進事業開発プラン推進校」に指定され、プロジェクター、コンピュータ、プリンタが全教室に設置されました。現在も、各学級で電子書き込みボードを活用した授業が行われています。

名古屋市の最南東に位置し、有松から続く丘陵の上に建っており、子どもたちが、輝く太陽のもとで夢をもち、すくすくと伸びゆくことを願い「南陵」小学校と命名されました。学区には、南に伊勢湾岸自動車道や名四国道、西に愛知用水や東海道新幹線が通っています。

平成21（2009）年度より学区の再編が行われた結果、委託選択地区からの通学児童が増えました。学区編成前と比較すると、児童数は約1.5倍となり、平成25（2013）年度は児童数397、学級数16となり、今後もさらに増加していくことが見込まれています。



名古屋市立 大高北小学校

緑区大高町字町屋川1番地

児童数 310名 教職員数 26名

校地面積 17,185平方メートル



本校は、昭和56（1981）年4月に大高小学校より分離独立し開校しました。校名は由緒ある大高の地名を残すとともに、大高町の北に位置することから、「大高北」と決定しました。学校は旧大高中学校跡を改修したもので、正門前の夢の広場や広い校庭があり、子どもたちは伸び伸びと活動しています。学区内には、大高緑地公園、交通公園を有し、歴史的に名高い桶狭間の戦いにゆかりのある丸根の砦や鷺津の砦などの跡が残っています。

平成22（2010）年度に創立30周年を迎え「心の豊かな子・よく考える子・元気な子」を校訓とし、「深く考える力（知）」「思いやる心（徳）」「粘り強く課題に向かう意欲（体）」を育む学校づくりを目指しています。

学区住民の協力による「学童パトロール」やPTAによる自主的な活動である「声かけボランティア」「グリーンボランティア」「朝のあいさつ運動」など、地域とPTAによる支援活動も活発に行われています。



名古屋市立 大高南小学校

緑区大高町字阿原35番地

児童数 414名 教職員数 35名

校地面積 15,770平方メートル



本校は、昭和61（1986）年4月、大高小学校から分離独立し、緑区で22番目の小学校として開校しました。児童・保護者・職員が一体となって新しい学校をつくりたい、真の意味でみんなのつくった学校にしたいとの願いのもと、児童や保護者・職員へのアンケートをもとに校訓・校歌づくりに努めました。校訓は「もっと思いやりのある子に もっと努力する子に」です。校舎は、時計塔やシラサギの風見鳥がある白く個性的な外観で、昭和61年12月に名古屋市から都市景観賞を受賞しました。学区は、緑豊かな大高緑地や大高城址、丸根砦などの史跡に囲まれています。学校北側には森の里団地、南側には本校の病院内学級が併設されている総合病院や大型ショッピングセンター、JR南大高駅があります。平成18（2006）年度から学区となった南西地区には、住宅が次々と建てられ、新しい町へ発展を続けています。これからも地域と共に児童・保護者・職員が一つとなって、未来への教育活動を創造し、新たな大高南小学校の伝統を築いていくのが目標です。



名古屋市立 徳重小学校

緑区徳重二丁目801番地

児童数 426名 教職員数 31名

校地面積 13,892平方メートル



本校は昭和63（1988）年4月に、鳴海東部小学校から分かれて開校しました。学校創設以来「思いやりのある子・元気よく頑張り通す子・やりぬく子」を目ざして教育活動を進めています。開校時は児童数301名、11学級でしたが、平成9（1997）年には519名、18学級にまで増えました。その後も学区は宅地造成が進み、次々と住宅が建設され校区は大きく変貌していきました。平成19（2007）年には、児童数823名、29学級までに拡大しました。

この年は、創立20周年の記念式典を開催しました。また、大規模校解消のため、同じく大規模校である神の倉小との間で新しく「熊の前小学校」の開校準備作業を進め、平成20（2008）年4月1日に開校させました。これにより、本校の児童数はほぼ半分になり、教育活動の質的転換点となりました。また、本校はF B C花壇コンクールで多くの賞を受賞しています。平成18（2006）年から23（2011）年春までに、9回大賞・市長賞・大臣賞を受賞するという輝かしい成果をあげています。



名古屋市立 滝ノ水小学校

緑区滝ノ水一丁目1901番地

児童数 563名 教職員数 36名

校地面積 13,220平方メートル



本校は平成2（1990）年4月1日、旭出小学校、鳴海東部小学校、相原小学校から分離独立しました。校舎にはアーチ状の前室がある多目的室や学校周辺からよく見える時計台が設けられ、しゃれた外観になっています。学区は里山を宅地造成してできた地域で、緑豊かな閑静な住宅地に生まれ変わっています。学校北側には小高い丘になった滝の水公園が整備され、名古屋市内が一望できます。街の灯りがまたたく夜景はとてもきれいです。

また、学校の南東側には、里山の自然を残した滝ノ水緑地も整備され、子どもの遊び場や住民の散歩コースとなっています。平成16（2004）年度には、P T A活動に父親の「滝っ子父さんクラブ」を設立し、学区行事にも積極的に参加をして地域住民から喜ばれています。平成21（2009）年には開校20周年を祝い、一つの節目を迎え「よく考え、進んで学ぶ子」「明るく、思いやりのある子」「きまりを守り、正しく行動する子」の育成をめざして、新たな滝ノ水小学校の歴史のページを、一步一步刻んでいます。



名古屋市立 大清水小学校

緑区大清水西901番地

児童数 1,012名 教職員数 53名

校地面積 13,001平方メートル



本校は、平成2（1990）年4月に人口急増により過大校となった鳴海東部小学校より分離独立し、児童数346名、12学級、職員数26名で開校しました。校名は、地域より募集して決められました。

開校以来「心も体も健康で、豊かな情操をもち、未来の社会にも対応できる人間の育成」をめざしてきました。学区周辺によく見られるぶどう園のぶどうの木が学校の中にも二本植えられ、4年の総合的な学習の時間の教材となっています。

学区は、丘陵地に住宅地が広がり、静かで恵まれた環境となっています。学区の東には自然を生かした水広公園があり、低学年の生活科の学習の場であり、市民の憩いの場でもあります。南には豊明の二村山から古鳴海へと続く歴史ある鎌倉街道が通っています。平成21（2009）年には、20周年を迎え、平成25（2013）年には、児童数が1,000人を超えるほどになりました。



名古屋市立 常安小学校

緑区乗鞍一丁目2101番地

児童数 302名 教職員数 24名

校地面積 13,001平方メートル



本校は、平成10（1998）年4月、鳴海東部小学校及び徳重小学校の一部から分離新設されました。学校のある地域の古い地名である「常安」を取り入れるとともに、常に心に安らぎを抱き、ゆとりとうるおいのある学校にしたいとの願いが込められ、校名が名付けられました。

開校以来、地域に密着した「開かれた学校」を目指し、「ともに育てよう」を合い言葉に地域・保護者と協力して児童を育てています。また、「思いやりの心をもち、仲良く助け合う子・礼儀正しく元気な子・自分で考え進んで学ぶ子・ねばり強く頑張る子」の育成を目指し、児童一人一人が輝く学校づくりに努めています。

平成20（2008）年、全日本小学生女子ソフトボール大会準優勝、平成22（2010）年、名古屋市歯科衛生活動奨励校に指定されるなど、心身共に健康な児童の育成も目指して邁進しています。



名古屋市立 小坂小学校

緑区小坂一丁目1001番地の2

児童数 696名 教職員数 42名

校地面積 12,725平方メートル



本校は、平成15（2003）年4月、滝ノ水小学校、鳴海東部小学校から分離独立し、平成24（2012）年度に創立10周年を迎えました。屋上緑化や太陽光発電、雨水利用などの環境へ配慮した施設と、エレベータや点字ブロック、段差のない昇降口など福祉施設が充実しています。また、校舎内には大きな窓が多く、明るい雰囲気を作っています。

学校創立以来「進んで学び考える子・豊かな心をはぐくみ思いやりのある子・運動する喜びを知る健やかな子」の育成を目指し、一人一人を大切にした指導に努めてきました。また、平成23（2011）年度の花壇の運営で、F B C（フラワー・ブラボー・コンクール）名古屋市長賞を春・秋と連続受賞しました。住みよい町プロジェクトと称した活動では、学区の方々や保護者とともに、街路樹の下を花でいっぱいにしています。学区は、緑の多い丘陵地の閑静な住宅地で、平成23年度には名古屋第二環状自動車道が開通しました。今後も地域が発展する中、地域と保護者と学校が連携し、教育活動の充実を図っていきます。



名古屋市立 熊の前小学校

緑区亀が洞一丁目901番地

児童数 1,028名 教職員数 59名

校地面積 13,659平方メートル



本校は、平成20（2008）年4月、大規模校の神の倉小学校・徳重小学校から分離独立しました。校名は熊野社が在る地名「熊ノ前」に由来します。また、校章は熊野社参道の桜と学校横の扇川の水をイメージしています。児童数は年々増加し、3年目には千人を超えました。開校より「『学ぶ力』『豊かな心』『健やかな体』を備えた子の育成」をめざし基礎・基本の充実、施設や自然を活用した環境教育、地域との触れ合いに重点的取り組んでいます。校舎は、壁面や床などの木化率が高く、木の温かみを感じることができます。

各階にある「ふれあいコーナー」、1階の3カ所ある隠れ家的スペースの「アルコープ」中庭のウッドデッキなど児童が触れ合える場所が確保されています。また壁面緑化、太陽光パネル、雨水利用などの環境に配慮された学校でもあります。この地域は新興住宅街ですが、熊野前社とその周辺の緑地、扇川、点在する公園、池などの自然に恵まれ、熊の前学区安全ボランティアの人たちを始めとする地域の人々に支えられている学校です。



名古屋市立 鳴海中学校

緑区六田二丁目96番地

生徒数 475名 教職員数 39名

校地面積 17,446平方メートル



本校は、昭和22（1947）年、汐見が丘（現名古屋市立緑高等学校）に愛知郡鳴海町立鳴海中学校として創立されました。昭和38（1963）年、名古屋市へ合併され、名古屋市立鳴海中学校となりました。昭和44（1969）年、緑高等学校の開校に伴い、現在の六田地内へ移転しました。昭和40（1965）年までは、現在の緑区の中学校10校分を学区とする広い学区の学校でした。

部活動では、名古屋市中学校総合体育大会において男女総合優勝するなど、輝かしい伝統をもった学校です。現在の生徒たちもその伝統を引き継ぎ、行事・部活に対して、校訓にある「誠実」を大切にして取り組み、いくつかの部活動で県・東海大会に出場するなど大きな成果をあげています。



名古屋市立 大高中学校

緑区森の里一丁目107番地

生徒数 588名 教職員数 36名

校地面積 33,173平方メートル



昭和22（1947）年4月、本校は、知多郡大高町立大高中学校として大高町町屋川（現大高北小学校校地）に開校しました。昭和39（1964）年12月には、大高町が名古屋市に合併したことで、校名も名古屋市立大高中学校となりました。その後、森の里団地建設にともなって、昭和55（1980）年に約1キロ南の日本紡績（株）跡地に移転し、学校公園構想による新しい学校に生まれ変わりました。

現在の大高中学校は、数千本の樹木に囲まれた敷地に、市内屈指の広々とした運動場をもち、校風は、昭和29（1954）年に制定された校訓「誠実・勤勉・健康」に象徴されています。生徒も教師もいっしょに何事にも全力で取り組むとともに、保護者や地域の人々が温かく支援していくのが伝統です。このような開校当時から火高（ほだか）の魂は、世代を超えて脈々と受け継がれ、生徒たちも、互いに協力し励まし合うことを大切にしながら、豊かな感性をもつ人間をめざして学んでいます。



名古屋市立 有松中学校

緑区有松町大字桶狭間字高根39番地の83

生徒数 851名 教職員数 54名

校地面積 18,431平方メートル



本校は、昭和22（1947）年4月、知多郡有松町立有松中学校として誕生しました。昭和23（1948）年校章を制定、同26（1951）年には校歌ができました。昭和32（1957）年、名古屋の公立学校では唯一の円形校舎（現在は普通校舎に建て替え）が完成し、同39（1964）年12月名古屋市と合併し現在に至っています。校地は桶狭間の古戦場一帯の場で、緑に囲まれた丘の上にあり、有松小・桶狭間小・南陵小の3学区から成っています。学区内では宅地開発が著しく、生徒数の増加が続いています。

創立以来「自由・責任・親愛・協同・勤勉・努力」を校訓とし、自らの能力の伸長を図り、心身ともに健全で、力あふれるたくましい生徒の育成をめざして、教育活動を行っています。「有中祭」などの行事では、展示発表や舞台発表を通して、生徒の自主性も伸ばすように努めています。また、地域の協力のもと、地域に根ざした調査研究や職業体験なども行っています。



名古屋市立 鳴子台中学校

緑区鳴子町3丁目40番地

生徒数 431名 教職員数 27名

校地面積 17,100平方メートル



本校は、昭和41（1966）年4月鳴海中学校の分校から独立しました。学校の周辺には県営住宅やマンションが建ち並び、緑に恵まれた閑静な環境にあります。平成23（2011）年3月に地下鉄桜通線が徳重駅まで延長となり、鳴子北駅が最寄りの駅となりました。

創立以来、「自律・協調・誠実」を校訓とし、心豊かな人間の育成を目指しています。平成27（2015）年度には創立50周年を迎えます。緑の芽生えをかたどった台地、その上に「中」の文字に理想を求め、英知をみがき豊かな友情を育みつつ、伸びていく学校を象徴とした校章を胸に、生徒・教職員が一緒になって教育活動に取り組んでいます。

最近では、体育大会や文化発表会などの行事や様々な部活動で学校に活気が満ちあふれています。生徒会が呼び掛けた地域のボランティア活動にも、積極的に参加する生徒の姿が多く見られます。これからも、地域と学校が一丸となって、さらに大きな飛躍をめざしていきます。



名古屋市立 東陵中学校

緑区鳴海町字細根100番地の1

生徒数 474名 教職員数 34名

校地面積 14,721平方メートル



本校は、昭和48（1973）年4月に鳴海中学校より独立・開校し、平成24（2012）年度に創立40周年を迎えました。学校周辺は豊かな緑に囲まれ、閑静な住宅地に位置し、東丘小と太子小の両校を学区としています。

部活動が大変盛んで、生徒は熱心に練習に励み、成果を上げています。近年では、ソフトテニス部や剣道部、卓球部が県大会への出場を果たしています。

また、創立40周年の取り組みとして、PTAの支援のもと、生徒会を中心に有志で藤棚復活プロジェクトをスタートしました。創立50周年に向けて、東陵の地に藤の花を咲かせようと継続的な活動をしています。

開校以来、「翔（はばた）け東陵」を合言葉にして、心身ともに健康で人間性豊かな青少年の育成を目指しています。職業体験やボランティア活動の取り組みを通して、勤労・奉仕・協働をモットーによき校風を育み、地域社会への貢献に努めています。



名古屋市立 千鳥丘中学校

緑区鳴海町字山ノ神108番地

生徒数 353名 教職員数 25名

校地面積 16,554平方メートル



本校は、昭和49（1974）年4月1日、名古屋市立鳴海中学校の分校として出発し、この1年間は1・2年各3学級の計6学級でした。昭和50（1975）年4月1日、名古屋市立鳴海中学校から、片平・浦里の2小学校を学区に分離独立をしました。平成20（2008）年4月より特別支援学級を開設しました。

学校のすぐ西にある三王山には、「千鳥塚」という全国でも数少ない芭蕉直筆の石碑があり、市の文化財に指定されています。この文化的に由緒ある地に学校が建てられたので千鳥丘と名づけられました。

人間性豊かな生徒の育成を目指して教育活動を進める一方、校内の環境整備にも力を入れ、緑豊かなうるおいのある教育の場を作ることにも努めています。



名古屋市立 神沢中学校

緑区神沢二丁目1201番地

生徒数 598名 教職員数 31名

校地面積 13,901平方メートル



本校は、昭和51（1976）年4月、鳴子台中学校から独立し、校名の「神沢」は学区内の地名にちなんだものです。学区は緑区東北部の天白区と接した位置にあり、学校周辺は自然環境に恵まれています。名古屋第二環状自動車道の開通、地下鉄桜通線の延伸に伴い、急速に開発が進み、新たな時代を迎えようとしています。創立以来、校訓「汗と愛」を目標に、知育・徳育・体育の練磨に努め、人間相互の信頼と敬愛をもとにあたたかい心で、すべての人に思いやりのある行動ができる生徒の育成に取り組んでいます。この間、東海三県学校図書館奨励賞読書部門優秀賞受賞（昭和60（1985）年）・奨励賞（平成4（1992）年）、青少年読書感想文コンクール学校賞（平成11（1999）年）などを受賞しています。

教育熱心な家庭が多く、生徒の学習への意欲も高く、あいさつ運動や各種リサイクル活動に取り組む生徒会や部活動も活発で、合唱部の全国大会金賞・文部科学大臣賞受賞。ハンドボール部やバスケットボール部の県大会出場など、輝かしい実績を残しています。



名古屋市立 扇台中学校

緑区徳重一丁目1201番地

生徒数 690名 教職員数 40名

校地面積 16,530平方メートル



本校は、昭和54（1979）年4月に鳴海中学校から独立・開校しました。平成5（1993）年度に鎌倉台中学校が、平成16（2004）年度に神の倉中学校が分離・独立をし、現在は鳴海東部・徳重・常安の3小学校を抱えた学区となっています。

この学区は、扇川沿いの桜並木や大小様々な公園が点在し、緑あふれる地域です。また、平成23（2011）年3月に名古屋第二環状自動車道、地下鉄徳重の開通という交通の要としての役割を得て、大きな商業施設が造られ、新たな町づくりが進み、将来へのさらなる発展が期待されています。

学校は、校訓「つよく さとく あたたかく」を掲げ、生徒・保護者や地域の願いである「明るく、楽しく、安心できる学校づくり」を基盤に、教職員の思いを集約した「分かり合う心 伝え合う心」を目指し、人と人とのつながりを大切にした教育活動に取り組んでいます。



名古屋市立 滝ノ水中学校

緑区滝ノ水三丁目602番地

生徒数 982名 教職員数 58名

校地面積 16,522平方メートル



本校は、昭和60（1985）年4月鳴海中学校から独立し、生徒数の増加によって名古屋でも有数の大規模校となりました。学区は緑区の中心に位置し、学校の周りは閑静な住宅街と豊かな緑に囲まれています。創立以来「信頼」を校訓とし、心身ともに健康で、自ら考え行動できる人間の育成を目標に教育活動を進めています。平成15（2003）年には小坂小学校の開校で通学区変更となり、旭出・小坂・滝ノ水の三学区から成っています。

校訓を基礎として、礼儀正しい生活習慣《徳》・自ら進んで学習する態度《知》・健康でたくましい身体《体》の習得を目ざし、歴史と伝統を築きあげています。

また、部活動も盛んで、合唱部等の文化部はコンクールなどで日頃の成果を発揮しています。運動部では、通算5回（3年連続を含む）の全国大会出場を誇るハンドボール部（男子）や2年連続出場のハンドボール部（女子）をはじめ、他の運動部も愛知県総合体育大会・名古屋市総合体育大会等で、輝かしい成果をあげています。



名古屋市立 左京山中学校

緑区左京山1407番地

生徒数 405名 教職員数 34名

校地面積 14,409平方メートル



平成4（1992）年、マンモス校鳴海中学校（4小学区）の解消のために、緑・平子学区の2学区からなる「左京山中学校」として、鳴海中学校より分離独立しました。開校以来、教職員・生徒・PTA・地域が一体となって「自分たちの手で自分たちの学校づくりを」のスローガンを合い言葉に、本校独自の校風・伝統の確立に務めています。

平成14（2002）年には、運動場拡張工事が完成し、1周200メートルのトラックがとれるようになり、体育大会がより一層活気あるものとなりました。同年には、校訓「仲間とともに輝く未来へ」が制定され、平成18（2006）年に体育館に飾られ、平成20（2008）年には保護者の協力により校碑として設置されました。平成21（2009）年には教材園「S K Y大地」が完成し、生徒たちは畝作りや苗植え、雑草取り、水やりなど、食物を育てることのたいへんさや収穫の喜びを体験し、「命」の尊さを学んでいます。また、毎朝の「あいさつ運動」には、保護者や教職員が自主的に参加し、気持ちのよい挨拶を交わしています。



名古屋市立 鎌倉台中学校

緑区鎌倉台二丁目402番地

生徒数 394名 教職員数 28名

校地面積 16,540平方メートル



本校は、平成5（1993）年4月、扇台中学校より分離独立し開校しました。校名は、学校のすぐ北側を、江戸時代に東海道が整備されるまでの交通の要路であった「鎌倉街道」が通っていたこと、学校が丘陵地にあったことから付きました。

学校の周りは、開校時にはぶどう畑が多くありましたが、今は、宅地開発が急速に進み生徒数は増加しています。

創立以来、「何事にも積極的に取り組む生徒の育成」を教育目標とし、やる気とチャレンジ精神の育成、基本的生活習慣の確立と他を思いやり公共のためにつくす心の育成、健康でたくましい身体を基調とした強い意志の育成をめざして、活動を進めてきました。

今後も、生徒一人一人が新たな課題に積極的に挑戦し、学び合いを通して自己実現を図っていく活動を大切にしていきます。



名古屋市立 神の倉中学校

緑区白土1201番地

生徒数 871名 教職員数 55名

校地面積 16,500平方メートル



本校は、平成16（2004）年4月、扇台中学校から分離独立して開校しました。東郷町との境に位置するなだらかな丘陵地帯にあり、住宅地や緑に囲まれています。周辺の宅地開発によって生徒数が急増し、平成25（2013）年現在、871名の大規模校となりました。

校舎は、バリアフリーや環境に配慮したつくりで、中庭を中心とした回廊状の構造をもち、太陽光発電などの設備があります。

校訓に「Be ambitious Be heartfelt Be powerful」を掲げ、学校努力点のもと、教職員が一丸となって、地域とのかかわりを密にしながら教育活動を行っています。学習面での向上のみならず、近年は、限られた敷地を交替で使いながら練習している部活動の成果も上がっています。校歌は、生徒による実行委員会が作詞した歌詞の付いた合唱曲となっています。また、体育館の緞帳も生徒のデザインによるもので、「自分達の手で学校を創っていく」という創立当初からの志は、今も脈々と受け継がれています。



名古屋市立 **緑高等学校**
緑区旭出一丁目1104番地

生徒数 1,037名 教職員数 63名
校地面積 35,903平方メートル



本校は、緑区最初の公立高校として、昭和44（1969）年4月1日に開校しました。現在、学級数は26クラス、生徒数は約1,000名で、緑区居住の生徒が48％を占めています。地下鉄の野並・徳重間の開業、人口23万人を突破した発展する緑区の中であって、地元からの期待をひしひしと感じています。

創立以来、自主・自立の精神を重んじ、閑静な住宅と緑と史跡に囲まれた環境の中で、心身ともにたくましい生徒の育成をめざしています。1. 真理を究める人になろう 2. 心の美しい人になろう 3. 他人を認める人になろう の教育目標の下、21世紀に求められている心豊かな知性の教育を実践しています。

部活動も盛んで、地域の行事に参加したり、緑文化小劇場で発表したりして、区民の皆さまにも喜んでいただいています。特に、演劇部は、部員数が60名を超え、毎年のように中部大会などに進出しています。



愛知県立 **鳴海高等学校**
緑区左京山801番地

生徒数 1,021名 教職員数 87名
校地面積 46,182平方メートル



本校は、大高緑地公園が近くにある緑に恵まれた環境の中、昭和51（1976）年4月に開校された緑区唯一の県立学校です。開校以来『「成」じっくり考え、判断し、実践する』の校訓のもと、生徒は落ち着いた雰囲気の中で、勉学はもちろん、部活動や学校祭などの行事に取り組んでいます。学習面においては、生徒の進路目標実現に向け、習熟度に応じた授業や、少人数によるきめ細かい授業を行っており、その結果、生徒の大部分が上級学校に進学しています。部活動は運動部が14、文化部が13あります。他にあまり類を見ないものは馬術部で、近くの中京競馬場で指導を受けながら練習に励み、全国大会の常連校となっています。他の部活動についても、運動部を中心に顧問の熱心な指導のもと連日練習に励んでおり、大いに活躍が期待されるところです。今後は、職員・保護者が一丸となって、今の社会に必要な「自分で考え行動できる人間」を育てあげるために日々の教育活動を実践し、地域に貢献できる学校を目指していきたいと考えています。